

令和6年9月27日

職員の皆さんへ

令和7年度予算編成にあたって

富田林市長 吉村 善美

令和7年度当初予算は、2期目の折り返しとなる3年目を迎え、私が市民の皆さまとお約束をした公約の実現はもとより、更に発展させていくための重要な予算編成となります。

また、令和7年は、いよいよ大阪・関西万博が開催され、大阪・関西地域はもちろん、本市の魅力を国内外にアピールする絶好の機会となる年です。

一方で、新型コロナウイルス感染症との闘いは一定の区切りがつかしましたが、世界情勢の悪化や為替の変動による物価高騰は長期化しており、改善の兆しは見えないまま、現在も市民生活に大きな影響を与え続けています。また、1月の能登半島地震や、8月に初めて発表された南海トラフ地震臨時情報など、市民の防災に対する意識も高まっています。

そのような状況において、私は、政治信条である「市民とともにつくる、市民が幸せになる、市民本位の市政」の実現のため、先頭に立って取り組み、誰もが「富田林に生まれて良かった、暮らして良かった、長生きして良かった」と思っただけの富田林の創造に向けて、「一つ、ひとつ、未来へ」前進していく決意を改めて胸に深く刻んでいるところです。

私は、市役所は「市民の役に立つ所」でなければならないと考えており、それを常々職員の皆さんに伝えていきます。市民の皆さま

まから託された貴重な財源と資源を有効に活用するため、市民とともに汗をかきながら、最大限の効果を発揮させられるよう、様々な事業に創意工夫して取り組んでいかなければなりません。

職員の皆さんは、「厳しい財政状況だから、できません」と思考を停止して、「できない理由」を探すのではなく、「どうすれば厳しい財政状況でもできるのか」を常に考え、答えを探し当て、実行してください。

また、これまで実施してきた本市の取組みに対しては、漫然と継続するのではなく、常に改善意識や問題意識を持ち、今より改善や見直しできる点はないか、新たに取り組むべき事業の財源や人員を生み出せないかなど、考えてみてください。そのような積極的な提案を私は期待しています。

各部長においては、単に部内のマネジメントにとどまらず、市民の幸せを第一に考え、部の職員の声を拾い上げ、他の部局との連携による更なる効果の創出や、喫緊の課題解決に向け、組織に縛られることなく、部局連携予算として積極的に取り組んでください。また、さらに組織を越えて他市町村との広域的な連携ができないかということについても、視野を広げ検討してください。

以上の認識を踏まえ、令和7年度の予算編成は、引き続き、所信表明で市民の皆さまにお約束した、

1. すべてのこどもを、みんなで応援するまちづくり
2. すべての市民の暮らしを支える住民福祉の増進
3. 人とまちが賑わい、地域の魅力と可能性を開くまちおこし・地域おこしを推進
4. 行財政改革・市役所改革の継続と市民サービス向上の両立を追求

を4つの柱とします。なお、施策の検討に当たっては、市民の声に広くアンテナを向け、例え、小さな声であっても市が拾うべきものではないか、必ず検討してください。

さらに、社会課題の解決につながる事業などについては、企業版ふるさと納税や、ガバメントクラウドファンディングの活用を積極的に検討し、市の財政負担抑制や収入増加に努めてください。

最後に、少子化・人口減少のトレンドを反転させるためのラストチャンスは2030年代に入るまでと言われています。残された時間は、本当に、あとわずかです。そのことを肝に銘じ、今こそ、私たちは、国や府よりも一歩先を行く意識を持って、様々な施策を強力に推進しなければなりません。そして、「魅力あるまち・富田林」を実現し、市民の皆さまに「富田林市は良いまちだ」と言ってもらえるよう全力で取り組みます。

「歳入の範囲内で歳出予算を組む」という財政規律を引き続き堅持することは言うまでもありませんが、予算編成は一部の職員で行っているものではありません。全職員一人ひとりが、予算編成を「自分ごと」として自覚し、知恵を出し合い、来年度の予算編成に取り組みしましょう。

以上、令和7年度予算編成の基本方針とします。